

収量増大のための栽培方法を確認

～「青天の霹靂」栽培講習会～

当JAは2月12日と14日の2日間、黒石市の山形支店と平川市の本店、藤崎町の常盤基幹支店の管内3ヶ所で「青天の霹靂（へきれき）」栽培講習会を開いた。生産者約150人が出席した。当管内の平成31年産は、298経営体（30年比41経営体減）で798畝（同142畝減）の作付けを予定。昨年の生育状況や気象経過を踏まえ、生産性強化に向けた栽培方法を確認し、出荷基準達成100%を目指す。

30年産青天の霹靂は、天候不良の影響で出荷実績は契約数量83.3%（29年91.2%）、出荷基準達成率は94.4%（29年98.4%）で、過去3カ年と比べ低い結果となった。講習会では、中南地域県民局の担当者が生産性を向上させるための栽培方法について説明。「生産性向上には初期生育量と栽植株数の確保が重要となる。株数を確保できるよう管理を徹底して健苗育成をし、適正時期に田植えを行ってほしい」と呼びかけた。また、品質を確保しながら労力軽減につながる一発肥料の紹介をした。

同品種は、玄米タンパク質含有率は水分15%換算で6.4%以下の出荷基準がある。確実に集荷できるよう、玄米タンパク質含有率（同）で6.0%以下、10畝収量9俵の生産目標を掲げ、施肥管理や基準栽培を徹底して行う。



説明を聞く生産者

青森県産りんごの魅力を消費者へ

～JA女性部員がりんご宣伝販売～

当JAは2月23日と24日の2日間、東京都と神奈川県のスーパ一三和4店舗でりんごの宣伝販売を行い、りんごを栽培しているJA女性部員8人とJA職員2人が参加した。

宣伝販売では、サンふじ、王林の販売とサンふじの試食を行い、りんごを購入した来場者は「試食で食べたりんごがとても美味しかった。買って帰り家族と食べたい」「青森県産りんごは美味しいのでいつも食べている」と話した。また、来場者と女性部員が保存方法や美味しいりんごの見分け方、青森県について会話をし、ふれあう姿も見られた。

参加した女性部員は「今回の宣伝販売でお客さまとふれあい、様々な意見を聞くことができ、とても良い経験になった。今後のりんご栽培につなげていきたい」と話した。



宣伝販売を行う女性部員



青森県産りんごの説明をする女性部員